



杉並景観録
第八号
SUGINAMI Keikan-Roku



●発行日 平成15年3月18日
●発行 杉並区まちづくり推進課
TEL.3312-2111(代) 内線3515



坂道

武蔵野台地の中央部に位置する杉並区は、平坦な地形と知られていますが、東西に流れる河川を挟むように、高台を走る街道があり、街道から川に向かって起伏のある地形となっています。

標高差は、約23mあり、変化のある地形の中に坂が点在しています。坂には、地藏坂・山王坂・大聖寺坂など、神仏を祭祀した場所由来した名称や、三年坂・薬かん坂のように、昔からの言い伝えによる呼び名もあります。また、尻割坂、兼吉さん坂などユニークな名前の坂もあります。

時代の転換期といわれる今日、地平の先に広がる明日に向かい、坂道を上ってゆきます。



- 成田東二丁目 善福寺緑地付近②
- 和泉二丁目 井の頭線沿い①
- 堀之内一丁目・大宮一丁目 荒玉水道通り③
- 下高井戸二丁目④
- 和泉三丁目 尻割坂⑤

インタビュー

interview

出桁造りは、高度な職人技に支えられた、耐久性の高い建物ですが、その多くは店を閉め、個人住宅に変わっています。そのなかで、和泉伸通商栄会に、今も商売を続けておられるお店があります。

「この店は、昭和八年に父が建てたものです。羽目板とずれた瓦を直しただけで、あとは全て当時のままです。この出身の父は、ここに店を構える前は、渋谷で乾物屋を営んでいました。渋谷の宮大工を呼んで、建てて貰いました。このあたりの甲州街道沿いにある出桁造りは、同じ宮大工の仕事なんです。親方が、大勢の職人さんを使って、賑やかだったようです。その頃で、二、〇〇〇円かかったと聞いています。」

「鬼瓦に刻まれている文字は、父梅田政吉の『政』の字と、商店を表す『へ』を、注文して焼いて貰った物です。瓦は、群馬か埼玉あたりから、取り寄せたと聞いています。看板も砂看板(板に糊で文字を書き砂を置いた看板)で良い物でしたが、縁が銅だったので、戦時中に、銅製の雨樋と一緒に、供出されました。戸袋は、造りが頑丈で、はがすことが出来ず、供出を諦められたそうです。父の思い入れと職人さんの確かな手仕事を感じられる、この店をこれからも大切にしたいと思っています。」



梅田漬物店二代目
梅田徳次さん
(うめだ とくじ)
和泉二丁目在住

このあたりの出桁造りは、同じ渋谷の宮大工の仕事なんですよ



看板の「よろずつけもの」の文字は、漬物の他様々な物を扱っているという意味



七宝繋ぎ模様が施された雨戸の戸袋。



鬼瓦に父 梅田政吉さんの「政」の文字が見える

図2 看板建築
(昭和2年頃～15年頃)

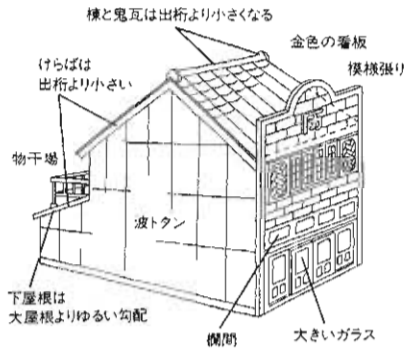
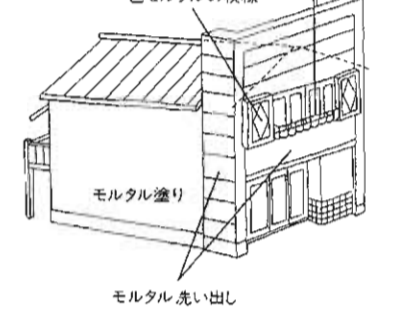


図3 戦後の看板建築
(昭和25年～) 色モルタルの模様



緑青色の銅版は、建設当初は赤銅色に輝き派手な建物だった。(桃井一丁目)



近年、アーケードの設置や大規模店舗・コンビニエンスストアなどの登場で、商店街の風景はさらに変わってゆきました。今もこの看板建築は、西荻窪や高円寺などの商店街で、多く見ることが出来ます。新旧のお店が混在するなか、時代を感じさせること無く、まちなみに溶け込んでいます。

宮崎駿監督作品、映画「千と千尋の神隠し」にも、この看板建築の商店街が登場しました。戦後になると、看板建築はデザインがよりシンプルなものとなり、今の商店街の代表的な風景を形成してゆくことになりました。



モルタルで装飾された写真館。建築当初はカフェだった。数年前に取り壊された。(荻窪二丁目)



欄間や手摺の凝ったデザイン



参考文献及び図出典
大嶋 信彌「商店建築観察ガイドブック 出桁造りから後期戦前建築まで」東京人1995年4月号より
参考文献一藤森明信「看板建築 新版」三省堂1999年
取材協力一杉並建物の復興
イラスト一金田 正夫

「湧水」のある風景



長い時間を掛け、ゆっくりと流れてくる地下水。慌ただしい現在、ふと、昔の風景が蘇ってくる。

区内にわずかに残る湧き水は、善福寺川に掛かる原寺分橋(西荻北四丁目)御供米橋(大宮二丁目)付近で、見ることが出来る。水量は決して多いとは言えないが、こんこんと湧いている。澄んだ水を求め、野鳥が集まる光景が見られる。



若い頃、野山を駆け回り、岩の間から染み出る湧き水を、葎きの葉ですくって飲んだ味は、今でも忘れることができない。疲れきった身体が、生気を取り戻したことも。都市化とともに、地下水位の低下などで、今では湧き水はほとんどなくなりました。武蔵野の面影が今も残る杉並区でも、例外ではない。

すぎなみ／ひと／まちなみ

SPECIAL EDITION



町家建築

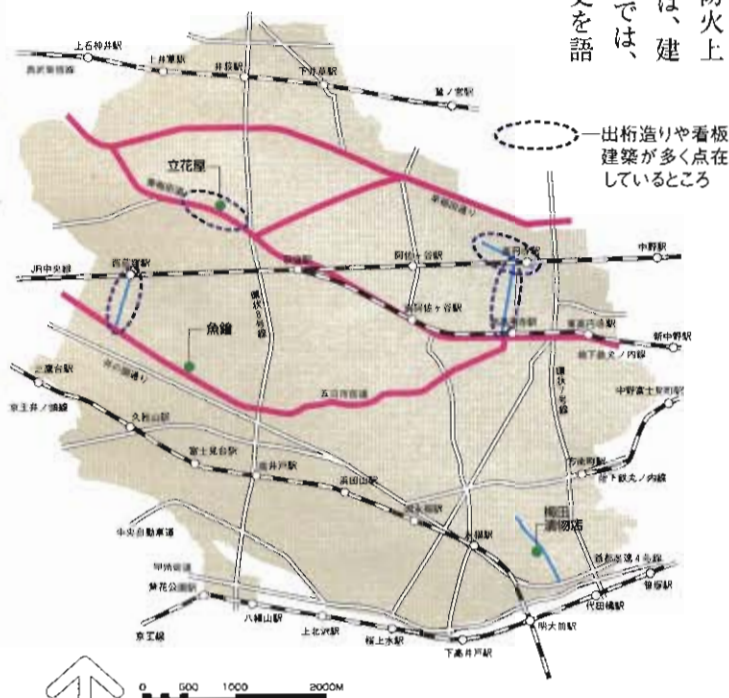
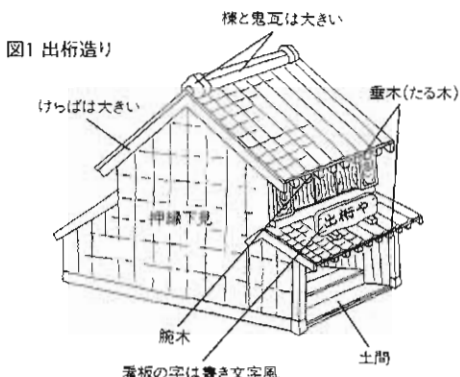
伝統的な木造建築「出桁造り」

内の街道沿いには、起源を江戸時代まで遡る伝統的な木造建築「出桁造り」(だしげたづくり)(図1)のお店が今も点在しています。

出桁造りとは、腕のようにはりだした木の上に垂木(屋根やひさしを支える細い角材)を受ける桁が載っている造りで、伝統的な建築様式のひとつです。この様式は、もとは家の軒を広く、または丈夫にするための工夫でしたが、東京では、家を立派にみせるための飾りとして使われるようになりました。

明治から昭和の初期頃までは、鉄道などの交通手段が未発達だったので、人々の生活の中心が街道沿いにあり、この出桁造りのお店が軒を連ねていました。

戦後になると、建物が密集し、防火上の制限などから、出桁造りの建物は、建てることができなくなりました。今では、数少なくはなりましたが、静かに歴史を語っています。



魚鐘一(宮前二丁目)

商いとともにも変わる店構え

出桁造りのお店では、お客さんが店先の上り框や座敷に腰掛け、番頭さんなどを相手にお茶を飲みながら、丁稚さんが奥から持ってきた商品を品定めするといった、テレビの時代劇にも見られる商いのやり方でした。これを、座売りといいますが、

明治六年、政府の指揮で誕生した「銀座煉瓦街」から、陳列販売方式という新しい商法が始まり、各地に広がってゆきました。これは、商品をショウケースなどに並べ、下足のまま店内に入って来たお客さん

随所に光る匠の技



出桁造りの軒先詳細 木口には胡粉(貝殻を砕いて粉にしたもの)を防腐と装飾を兼ねて塗ったものや、銅板で覆ったものもある。



今では珍しい大きな棟瓦



「あんこう」と呼ばれる銅細工の集水ます。

建物を飾る文様



網代(あじろ)模様 模様は、小さな銅版を噛み合わせて作る、手の込んだもの。



麻よけの模様とも言われる麻の葉模様。



昭和19年の青梅街道。看板建築と出桁造りの店舗が並ぶ。(田端交番付近 成田東四丁目)

日本独自のハイカラ 擬洋風商店「看板建築」

大 正十一年、中央線に荻窪駅に続いて、高円寺・阿佐ヶ谷・西荻窪駅が開設されました。翌年には関東大震災が発生し、都心部の人々が、続々と区内に移転してきました。この頃から杉並区の人口は急激に増え、お店も次々と建てられました。

これらのお店の中には、正面にタイルや銅板を貼ったり、モルタル(セメントと砂を水でねったもの)で塗り固めて、燃えにくい工夫が施された建物が登場しました。このような建物は「看板建築」(図2・3)と呼ばれるもので、まちの大家さんが独自にデザインした擬洋風の店舗です。壁面には、欧米のアルデコから江戸小紋の文様まで、古今東西の装飾がちりばめられ、独特の存在感を醸し出しています。

町家とは、道に面した店舗併用住宅のことで、その起源は、平安時代まで遡ると云われており、出桁造りや看板建築などの建築様式があります。一般に町家と言えは、京都を連想しますが、区内にも、町家と呼ばれる建物があります。

が、自由に品物を眺めることができようにしたものです。今では、あたりまえのことになっていますが、当時は画期的なことでした。この販売方法の浸透で、伝統的なお店も従来の深く垂れたのれんに代わり、店先にショーウィンドウを作り、ガラス戸を入れ店内の様子を道からうかがえるように改装されてゆきました。

教室から発信するまちなみづくり

工事中フェンスを キャンパスに

地下鉄東高円寺駅
エレベーター設置工事

女子美術大学 短期大学部



まちで見かける工事中フェンスといえば、無味乾燥で圧迫感が有り、良いイメージを与えないものが多いです。景観を損ねがちな工事中フェンスを使って、楽しいまちなみにする試みが女子美術大学短期大学部情報デザイン専攻の学生さんと帝都高速交通営団・施工業者(株)日産建設の協力で実現しました。

場所は、蚕糸の森公園の中、駅利用者が多く往來するところ。そこで、女子美の学生さんは、フェンスの装飾テーマを歩行者とのコミュニケーションに決定。デザイン・制作・貼り付け作業と半年以上に渡り、取り組んでくれました。磁気タイプのシートを使い、自由に張り替えて遊べるなどの工夫を凝らし、子ども達にも好評でした。

まちの問題を解決する プランを提案

第8回「杉並で学ぶ
安全で活気のある
まちづくり計画とは」

東京電機大学建築学科
公開授業

建築学科3年生が、区内を歩き、地域の問題点や現状を把握し、解決策をつくる授業が今年も開催されました。

今回取り上げた地区は、高井戸駅・西永福北口商店街・高円寺南三丁目などです。それぞれの成果は産業商工会館や区役所1階ロビーで発表されました。課題や解決策などのパネルは、他の民間施設から展示の要望が出るほど好評でした。

学校のまわりを明るく まちかど修景整備事業

区立杉並第一小学校 東洋大学建築学科

杉並第一小学校の3～5年生有志が、中杉通り沿いの植え込みや塀を明るく魅力的な空間に変身させようと知恵を絞ってくれました。

話し合いは、「まちかどアートプロジェクト」と題して、子ども達の考えのまとめ役として東洋大学建築学科の3年生も加わり、賑やかに行われました。平成14年9月～12月に6回集まりました。



ここでまとめられたアイデアをもとに15年度工事をする予定です。

平成15年2月 アイデアを区役所1階ロビーで展示

散歩の途中で...

“ギーキッキ”と古びた木戸を叩く音。そんな懐かしい音が聞こえたら、一寸足を止めて周囲を見回してみてください。高い木の枝から枝へと忙しそうに動き回る、縞のコートを着た小さな鳥を見つければいいです。

“コゲラ”

近年、公園や住宅地の小さな樹林にも見られるようになった小型のキツツキです。目をつぶり“トロロ、トロロ”と虫を探して木をたたき音を聞いていると、一瞬、深い森の中へと足を踏み入れた感覚に。そして、目をあけるといつもの通り慣れた道で、新しいまちなみの景色を発見できるかもしれません。



イラスト「コゲラ」
冊子自然観察ガイドブック
「すぎなみの鳥」
発行：杉並区 より抜粋

—すぎなみまちづくりルール の確立を目指して—

平成15年4月1日
『杉並区まちづくり条例』が
スタートします。

まちづくりを進めるための仕組みを定め、区民・事業者及び区のパートナーシップ(協働)のもとで地域からの発想によるまちづくりを推進します。

『まちづくり条例』のパンフレットはまちづくり推進課などで配布します。

*なお、条例の一部は7月1日からの施行となります。



杉並「まち」デザイン賞候補募集 締切迫る!

大好きな「まち」だから、
みんなに教えたい。



区内で見つけた素敵な建物やまちかどなどをお知らせください。皆さんの推薦をもとに選定し表彰します。自薦他薦を問いません。

締切

2003年5月31日

発表

2004年2月【予定】
広報・リーフレットでお知らせします。

詳細は
まちづくり推進課
まで

SUGINAMI
URBAN
DESIGN
PRIZE

編集後記

道をどう人に教えるかで、その人の好みや行動などが解るとか。人は、それぞれ好きな場所やよく行く所を記した記憶の地図を持っているからだと思います。今年はどうな名所が加わるでしょうか。